



発行日：平成 26 年 12 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 24 回海部会 WG を開催しました！

第 24 回海部会 WG では、三河湾の海底ごみや生き物調査の結果について理解を深めるとともに、三河湾試験干潟造成に向けた検討や今年度のWGのとりまとめや来年度の活動について話し合いました。



日時：H26 年 12 月 17 日（水） 15:00～17:00  
場所：西尾市役所 会議棟 2F 第 2 会議室  
参加者：16 名（事務局含む）

### ◆主な会議内容

#### 1：愛知県による三河湾の海底ごみや生き物の調査についての検討



愛知県水産試験場の山田主任研究員より、2014 年の 6 月から 10 月にかけて月 1 回小型機船底びき網漁船で三河湾の海底ごみや生き物を調査した結果について、報告をしていただいた。

##### 〈海底の生き物について〉

- ・三河湾では、7 月から 9 月に貧酸素水塊が増加し、底生性の魚貝類が減少。10 月に貧酸素水塊が消失後も、移動能力のあるカレイやエビも、湾奥には戻らない。
- ・今後は、干潟・浅場造成による貧酸素水塊の抑制とともに、局地的に環境が悪化する港や泊地などのデッドゾーン対策による湾奥の生息環境改善が課題。



##### 〈海底のごみについて〉

- ・ヒトデや貝殻、非有用生物（漁獲対象にならない小さなカニなど）が大半であり、人工のごみは少ない。

#### 2：話し合いで決まったこと



##### ■三河湾試験干潟造成に向けた検討について

- ・矢作ダムからダンプ 6 杯分の砂をいただけることになった。
- ・三河港湾事務所に海へ砂を搬入していただく。
- ・砂を仮置きする場所や搬入場所、ルート等の詳細は三河港湾事務所と石川氏で個別調整いただく。

##### ■来年度の活動について

- ・矢作ダム砂で干潟試験地を造成して山や川、子供に PR し、学問とは別のインパクトを残したい。
- ・意見やアイデアがあれば次回の地域部会までに個別に提案いただく。

##### ■今年度のWGのとりまとめについて

- ・3 年区切りの第 2 ステージの 2 ヶ年目にあたる今年度は、昨年度と同様、当初定めた目標に対する達成状況を整理して活動の成果を検証する。



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄

TEL 0532(48)8107 / FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。



## ◆ 会議での主な意見

(・意見 ▶回答)

### ■ 三河湾の海底ごみや生き物の調査結果について

- 今年はシャコやアカシエビが特に少ない。航路の浚渫土は、粒子が細かく固まるとコンクリートみたいになり、カニやカレイの稚魚はいるがアサリなどの貝類がいない。硬い砂しか棲めないカシパンが現れた。(石川)
  - ▶ 以前いなかった場所に新たに出現した生き物は、水質浄化には貢献しているといえる。(山田)
- 貧酸素水塊の量によってどのくらい底生生物に影響が出るのか。(青木)
  - ▶ 貧酸素水塊の層の厚さは近年 1m~2mと薄いのが、7月、8月頃に大規模に発達するのがよくない。(山田)
- その年の河川の水量も関係あると思うが違いはあるのか。(高橋)
  - ▶ 濁水の年の方が貧酸素水塊の発達が著しい傾向がある。(山田)
- 透明度は、長期的にみてよくなっているのか。(井上)
  - ▶ 全湾的に水質がよくなり、植物プランクトンも年々減っている。(山田)
- 川の水がきれいになりすぎて海に栄養がない。(高橋)
  - ▶ 負荷量は減っているが、貧酸素化はなかなかなくなる。(山田)
- 抜本的に貧酸素水塊を解消する方策はあるのか。(榊原)
  - ▶ 深掘りした場所や堆積物がたまり貧酸素化している場所では、硫化水素が発生して周りに悪影響を与えるため、そこをなんとか抑える必要がある。しかし航路を埋めるわけにはいかず難しい問題である。(山田)



### ■ 三河湾試験干潟造成に向けた検討について

- 矢作ダムと話をしてダンプ 6 杯の砂をいただけることになった。(西原)
- ダンプ 6 杯だと 30cm の厚さで 10m×10m の広さになる。(石川)
- 矢作ダムから持ってきた砂を仮置きする適地はあるか。(西原)
  - ▶ 石材埠頭(物揚場)付近か東幡豆のテニスコート前の岸壁で愛知県が所有する土地の一角を考えているが、話をつめる必要がある。(石川)
- 陸上からだ侵入防止柵で重機が入れない場所がある。一方、海上からだ船に乗せるバックホウが造成場所まで届かない可能性もある。(澤田)
- 陸上の場合は東側から入った方がよいのではないか。(高橋)
- キャタピラが有効だが、陸から運ぶならさらに浅い場所の方がよい。(石川)
- 搬入方法の詳細は石川さんと澤田さんに調整いただき、2 月実施に間に合えば2月の全体会議でなにかしらの報告ができる。(西原)



### ■ 今年度のWGのとりまとめについて

- 昨年度同様のフォーマットで今年度のWGの活動成果をまとめたい。(西原)
  - ▶ 最初に決めた目標に対してできたかできなかつたかを検証するのは通常の方法で悪くない。(青木)
- 事務局に頼らない運営に移行しつつあるが、“連携”にはまだ課題がある。(青木)

### ■ 来年度の活動について

- 事務局案にとらわれず次回の地域部会までに来年度の活動についての考えや提案をいただきたい。(西原)
- 矢作ダムの砂で干潟をつくったらPRを推進すべき。「ダンプ 6 杯の砂を入れた」で終わりではなく、イベントをしたり子どもを呼び掛ける仕掛けを考えたり、土砂の意識を高めていくきっかけにしたい。(青木)
- 純粋に学問的なことだけでなく別のインパクトを期待したい。(青木)
- 記者発表をして子どもたちに参加を呼び掛けることも可能。(西原)

### ■ その他報告

- 1 月 25 日にアサヒビールの環境文化講座で森と水に関する講演を行う。森の土がつくる水や食物連鎖と水の間接的な関係を考える主旨で矢作川流域懇談会での活動も含めて話題提供をする。また、1 月 10 日、11 日は汽水域合同研究発表会で話題提供する。(井上)

## 今後のスケジュール (予定)



### 次回 海部会第 25 回 WG を 1 月 14 日 (水) に開催します

内容は、今年度のWGのとりまとめと来年度の活動などについて話し合う予定です。

